

フォギング性試験のご案内

自動車用内装材に用いられるゴム・プラスチック・繊維等には、数多くの添加剤や接着剤が用いられています。

夏期等車内が高温化することで、材料中から揮発した物質が、外気で冷やされ、窓ガラス内面に付着し、視界を妨げる現象(フォギング)が発生します。フォギング性試験は、内装材に起因するこのような挙動を評価いたします。

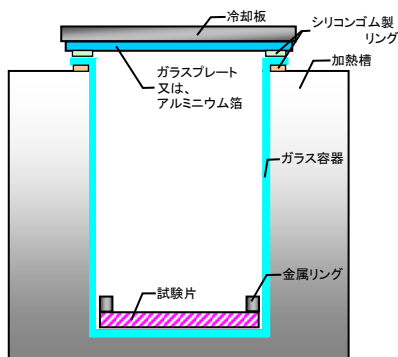


試験概要

試験片を所定のガラス容器に入れ、ガラスプレートで蓋をし、ガラス容器を加熱しながらガラスプレートを冷却します。揮発した物質は、ガラスプレートに付着し、曇りを発生させます。このガラスプレートの反射率、曇価(HAZE)及び付着物質量を測定し、フォギング特性として評価します。

また、曇りの原因となった付着物質の定性・定量も実施可能です。

処理例



・処理条件

試験温度: 50°C~160°C

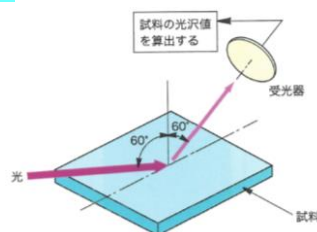
冷却温度: 20°C~40°C

試験時間: 3時間, 16時間等

測定例

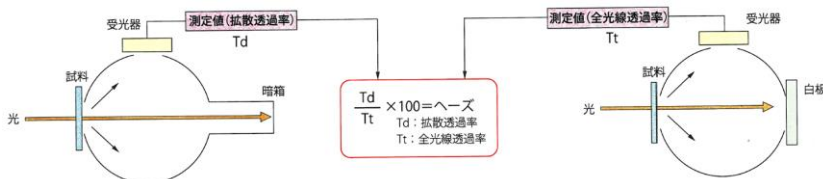
・反射率測定

ガラスプレート表面の鏡面反射光の度合いを測定します。一般的に付着物が少ないほど正反射光が強くなります。



・HAZE測定

ガラスプレートの光線透過率を測定し、曇価(HAZE)を算出します。一般的に付着物が少ないほどHAZE値は低くなります。



評価事例

- ・自動車用内装材及び部品に起因するフォギング性評価
- ・内装材に用いられる添加剤の種類及び添加量に依存したフォギング特性評価



一般財団法人 化学物質評価研究機構
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

名古屋事業所

〒466-0858 愛知県名古屋市昭和区折戸町4-1

TEL: 052(761)1185 FAX: 052(762)6055

URL <https://www.cerij.or.jp>